

聞いてごしない Part 12

ガーデニングのすすめ

もう15年以上園芸を仕事として、また趣味として楽しんでおります。そんな私でなくとも感じておられる方が多いと思いますが、最近家の回りや庭を花やグリーンで美しく飾っている家が増えてきました。ガーデニング業界の推定市場規模は、この5年間で1,000億円増えて3,800億円にもなるそうです。

英語ではガーデニングですが、日本語で言えば「園芸」とか「庭いじり」という意味で、伝統的な盆栽や植木、家庭菜園、果樹まで全部入ります。現在、ガーデニングの大ブームと言われていますが、むしろ今以上にブームだったのは江戸時代中期以降であったと専門家の間では言われています。平和な時代で、人々に余裕があり花好きの武士が多く、中国の本草書を読んだ彼らが庶民にその知識を教えていき、参勤交代制度があったのも、全国へ園芸ブームを広げる要因とも言われています。

当会の会員の中でも「ガーデニングにはまっている」という声を最近よく聞きます。家庭菜園にはまっている人も多そうです。自然を感じながら、家族とのコミュニケーションをもつという意味でも、興味の無い方にも是非おすすめしたい趣味です。

自分で苗を選び、庭やコンテナに植え、肥料・水をやり、時には病害虫に悩まされながらも何とか花を咲かせたり、実をならせたり野菜を収穫する喜びは、経験した事のある人にしかわからない喜びとすがすがしさです。

自ら土にまみれ、植物という生命体を育て、花や実をつけるという成果への期待感と、観賞や収穫の達成という充足感が得られるという意味では、ヒーリング効果も得られ、

仕事への意欲も一層わいてくるのではないのでしょうか。

デザインとか庭のバランスとか考えると、なかなかスタートできません。まず1本の草花や野菜を植え、その成長に日々思いを入れるところからはじめてみませんか。

〈by たそがれ桃次郎〉



コピーをして名簿にお貼り下さい

(広報)



かねだ かずなり 金田和成

AB型

松田仏具店 店長代理

仏具販売

〒689-3541 米子市二本木1043-1

TEL 27-1550

FAX 37-0070

H10.10入会

(推薦者) 景川

武海

〈自宅〉西伯郡大山町長田309番地1

〒689-3322 S39.1.15 TEL 53-3420

〈コメント〉

この度青年中央会へ入会させて頂きました金田和成と申します。広報委員会へ配属される事になりました。どうも有難うございました。これから皆様との交流の中で自分自身を磨き、地域社会等貢献出来るように努力して行きたいと思っております。皆様と早く親しくなって色々な話ができるようになりたいです。まだまだ未熟ですが、初心を忘れずこれから精進して行きたいと思っておりますので、御指導のほど宜しくお願い致します。

インターネット 玉手箱



先日、急にオーロラが見たくなった。と言っても簡単に見に行けるはずもなく、取りあえずインターネットを使い情報を集めてみた。インターネット番タウンページみたいな便利ページがあるので、そこに「オーロラ」と入力し、検索した所、カナダ北部のイエローナイフという町の情報がいくつか出てきました。読めばオーロラが見えるということでも有名になった町らしい。ジュンちゃんというイエローナイフに滞在経験のある可愛い女の子の作ったホームページにオーロラの事を詳しく書いてあったのでEメールを送って色々聞いてみた。次の日にはホテルの情報とか、ナイトスポット、オーロラの見頃時期等詳しく丁寧に返事送ってくれて、最後に曰く、このホームページを作ったおかげで、世界中に友達が出来ました。これからも色々情報交換をしましょうとの事。昔から友達だったような気がした。もう一つオーロラ関連で大笑いしたレポートがあったので紹介します。ぜひ読んでください。(Sei)

URL <http://village.infoweb.or.jp/~fwph1982/ikisatu.html>

11月例会案内

とき 平成10年11月16日(月) 18:30~
ところ 米子コンベンションセンター小ホール
講師 鳥取県議会議員 松田 一三氏(第7期卒 米子市)
鳥取県議会議員 石黒 豊氏(第7期卒 境港市)
鳥取県議会議員 湯原 俊二氏(現会員 米子市)
米子市議会議員 山形 周弘氏(第14期卒 米子市)
米子市議会議員 齊木 正一氏(第18期卒 米子市)
米子市議会議員 藤尾 信之氏(第18期卒 米子市)
演題 「市町村合併問題を考える」
「みんなで考えよう 21世紀の鳥取県西部地域」
担当 政治行政委員会

11月役員会報告

11月定例役員会が平成10年11月2日(月)、米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 11月、12月例会開催の件
(2) 県青年研修会参加の件
(3) その他
※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

連絡事項

会員手帳の記載に訂正箇所がありましたら、事務局までご一報下さい。

編集後記

11月に入り、やっと秋らしい季節になり、いつもこの季節になると思うことがある。毎年、今年の夏は痩せるぞと強い意志で望むが、毎年1kgずつ増えていくのはなぜだろうと秋の夜長に考え、つくづく意志の弱さを落胆するこのごろである。

1998.11 No.135

Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 宮 温 裕 和 編集責任者 中津尾 直己 印刷所 東京印刷(株)

◀◀◀ 韓国江原道経済交流視察団参加報告 ▶▶▶

直前会長 小原 得雄

さる10月19日より22日の4日間、鳥取県中小企業団体中央会の経済交流視察団の一員に参加し、韓国江原道を訪問した。団員は、(株)清水の清水昭允社長を団長、県団体中央会有田勝徳専務理事を副団長、県産業振興機構浜本寅松専務を顧問とした総勢17名。

視察団の訪韓は、韓国江原道における中小企業異業種団体等との経済交流を積極的に推進し、両国中小企業間の貿易、投資、技術交流等を促進することにより、本県中小企業の国際化への対応と、異業種交流の体質強化を図ることを目的としたものである。



第1日目、鳥取空港での結団式後、午前11時10分、チャーター便(鳥取商業高校の修学旅行に同乗)で一路ソウル金浦空港へ。午後12時50分着後、雲一つないソウルの秋晴れの下、江原道異業種交流連合会により準備された「歓迎」の横断幕付きのバスに乗り、江原道春川市(チュンチョン)のホテルに向かう。鳥取県より気温が低くやや肌寒い。ホテル到着後、6時より交流夕食会開催。韓国側からは、道庁、中小企業振興公団、江原道異業種交流連合会の関係者が参加し、6つのテーブルに分かれて交流、懇談した。

第2日目、江原道庁訪問。林副知事より来年江原道で開催される冬季アジア大会、観光エキスポの紹介があり、特に観光エキスポについては、本県に対し協力を期待していると述べられた。

その後、①資生堂から技術支援を受けている(株)東洋化粧品を訪問。工場、研究室を見学。②昭陽多目的ダム視察。このダムは、発電、軍事、韓国の水資源確保を目的として造られており、周辺の撮影さえ禁止された、通常入所不可能な施設であるが、今回特別許可を頂き、事務所の内部を見学させてもらった。一見のどかな風景だが、門衛が銃を携帯していることにこの国が準戦時体制にあるこ



とを改めて認識させられた。③張松模陶資研究院訪問。張先生は韓国で有名な無形文化財の一人である。韓国の古い時代の陶芸文化を後世に残すため、後継者育成に情熱を注いでおられる、暖かく人間味あふれた人格者であった。同時に韓国文化の一端に触れた気がした。

夕方になり、原州市(ウォンジュ)着。原州市主催の晩餐会、国際交流の夕べに出席。ここでは原州市長を始め、江原道異業種交流連合会メンバーを含めた100名が20テーブルに分かれ交流。緊縮財政ゆえか、レセプションはかなり「質素」で、市長の挨拶からも国、道、市等行政のトップがいかにIMF支援に対し敏感になっているかが窺われた。通訳の女子大生の話によると、韓国では大学卒業後も職に就くことができず、何年も就職を待つ状態という。

第3日目、「異業種交流プラザ」(江原道異業種交流連合会主催)に特別参加する日、会場に行く途中、一貫生産で集塵バルブを製作している大河機械製作所訪問。部品の製作から完成品までの過程を見学。

「異業種交流プラザ」は、雉岳美術館を会場として開催された。開会行事では、江原道知事、中小企業振興公団、原州市長による両都市の交流、発展を期待する挨拶が相次いだ。セレモニーの後には、展示会場のテブカットが行なわれ、清水団長が韓国国會議員等の来賓と共にテブカットに参加された。展示会場には鳥取県のブースも用意され、キッチン・キトサン衣料品などが展示してあり、参加者の注目を集めていた。報道機関も多数取材にきており、同プラザに対する関心の高さを物語っていた。

今回の訪問を通じ、韓国の中小企業施策は、日本における民間レベルの自主的な運営と異なり、行政が強

く指導力を発揮しているように感じた。最後に、今回の視察団に加えていただき、いろいろお世話いただきました団体中央会有田専務理事をはじめ、西村事務局次長、清水業務部長、福美振興課長、本城振興課係長様、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました(カムサハムニダ!)

10月例会報告

平成10年10月15日(木) ホテルわこうに於いて、10月例会が行われた。

綱領唱和の後、宮廻会長が挨拶され、ソフボール大会参加の御礼及び例会出席率の更なる向上について話をされた。

引き続き新入会員の金田和成会員にバッジの授与式が行われ、委員会タイムへ。今月は2020グランドデザイン委員会の担当であり、中ノ森会員より2020年に向けての企業戦略をどう作っていくのかについて述べられた。

今月の講演はシステムインテグレーション(株)の多喜義彦社長を迎え、「ビジネスの本質と21世紀のビジネスプロデュース」と題した講演を聞かせて頂いた。

講師 多喜義彦氏：全国の多種多業にわたる新事業・新商品のビジネスアドバイスを手掛け、約30年のベテランビジネスコンサルタント。

内容：多喜氏はどうすれば儲かるかと聞かれた時に人真似でなく誰か誰のためにビジネスをするのかという事を念頭に置くように提案する。つまり今一番大切にしなければならないのは量産ではなく質を大切にすることだ。

まず具体的に年商20億の売り上げを誇る会社を紹介する。ここは、葬儀の際、遺族が最も心を悩ますであろう作業の一つ、遺影写真作りをISDNを使い、顔からあざを取るなどして遺族に満足していただける写真作りを心がけた事でビジネスが成功に結び



付いたと語る。

次にハイテク技術を持つコピー会社が、従来の手法にこだわり大量生産につながるルート開拓にとられ、失敗しかけた事例をあげ、この中で、今こそ小さな単位に目を向け事業を進める事の重要性を話す。これに合わせ潰れていく企業の盲点を鋭く突く。量を追いすぎて見失うものがあるというのだ。つまり今、設備投資をするのはナンセンス。大胆にも設備を整えないと事業が発展していけないという考え方は捨てろというのだ。実際、自分達の事業の足元を見据えた場合、大きな設備投資にこだわらなくとも、小さな所にこそビジネスチャンスはいくらでもあるというのだ。

ある電気メーカーのモーターの話を取り上げ、従来、掃除機のために開発された一部の小さな部品にすぎないモーターを全く違う製品のエアータオルに利用する事で利益を上げているという事を力説。以前なら大手メーカーは商品それぞれに独自のモーターを開発するのが当たり前だったが、小さな所に目を向けたことでコストを押さえる事が出来たというのだ。

最後に開発とは物を作る事に目的を置くのではなく、ビジネスの想像に力を注ぐように説く。つまりビジネスの基本は商品と顧客とシステムの三要素にあると考え、そのいずれか一つを開発することでも新しい商売が生まれ、そこに十分な利益も生まれると語られた。



第7回 OB交流会 開催



10月3日、境港夢みなど公園広場においてOB交流会が開催された。

当日は、奥森会員のご尽力により設定できた夢みなど公園内緑地広場に午後3時頃より資材搬入。空ビールケース、ブルーシート、コンパネ、パーベキューグリルが小高い丘へ運び込まれる。掛け声と同時にあつという間に、テーブルのできあがり。続いて、照明班が射光器のセッティングにかかる。傍らでは7つの銘柄を揃えた生ビールサーバーに氷がつけられ、冷えるのを待つ。キムチ鍋のだし取りが始まり、グリルの炭に火が起こされた。あとは、できあがった食材の味見をするのみか。

なんと今年は、味見役の多い事。迎えるOB35名に対し、幹事役の

経営・総務委員会メンバーならびに役員と境地区会員をあわせ約50名。総勢80名を超える交流会となった。午後7時10分、水会員の司会のもと、宮廻会長、鶴田OB会長の挨拶・乾杯により開宴となる。シーフードパーベキュー。ビール、酒、水割りの提供に慌ただしく動き回る会員。キムチ鍋の評判もいい。ひとりひとり食材提供し終えたときには、テーブルは、OBと現役にわかれていた。肌寒さのせいかわりに自然とできる会員の集まり。準備されたテーブルの半分は、空席だ。

8時30分より、今年1月から7月入会の新入会員自己紹介の後、小原直前会長の締めで閉会となり、OBの皆様をマイクロバスまでお見送りする。

手際よく進められた後片付けの後、宮廻会長から労いの言葉で散会となった。

7回を数える今年のOB交流会。OB会員と現役会員との膝を交えての交流が図れたかは、いささか疑問が残る。今後の交流会のあり方が問われるであろう。



恒例 まつたけ委員会開催

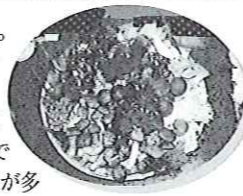
10月13日(火)この時期恒例になっている松茸委員会が、今年度はげんこつ委員会の担当の下、宮廻会長をはじめ四役、各委員会より委員長、副委員長、総勢28名でPM7:00より大連にて行われた。

最初に先口10/9グリーンパーク大連で行われた青経連のゴルフコンペに、宮廻会長・堀田副会長・安部会員・山本会員・中原会員・林会員が出席され、みごと団体優勝を勝ち取り優勝

カップが披露され、松茸委員会が始まった。

食材はマツタケをはじめマイタケ、ブナシメジ、シイタケ、エノキ、エリンギなどなど、今年もこの食材を使って茶碗蒸し、てんぷら、松茸御飯など、心いくまで料理を味わった。今回は各委員会の委員長が多く出席され、これまでの委員会の状況、ここでしか言えないこと、苦労話などユーモアたっぷり伺い、楽しい交流ができた1日だった。

最後に食材の手配、料理にとご苦労な徳永、岩崎、太田会員、松茸委員会を開催され、陰日向と動いて頂いたげんこつ委員会の皆さん本当にありがとうございました。



10月度委員会報告

経営委員会
平成10年10月2日(金) 於：米子食品会館 出席者/11名
内容/役員報告の後、翌日行われるOB交流会の最終確認・打ち合わせを行った。その後、内部講師として山本泰彦会員に「税のあれこれ」と題して、講演していただきました。
最後に10月例会の出席率アップを誓い会って閉会しました。

21地球委員会
平成10年10月5日(月) 於：焼肉屋 いこい 出席者/13名
内容/1. 役員報告
2. 9月担当例会の反省
3. 委員会テーマ検討

2020グランドデザイン委員会
平成10年10月9日(金) 於：米子食品会館 出席者/12名
内容/1. 役員報告
9月例会の反省、中小企業団体全国大会参加の件、OB交流会の反省、県経営、研修会の参加要請、ビジネス交流委員会の企画による冊子の内容及び参加要請等
2. 協議事項
10月担当例会の細部打合せ
①会場設営の役割分担の確認
(担当 多賀会員、門脇会員、永田会員、種会員)
②受付の配置確認
(担当 萬田副委員長、木美会員、近岡会員、衣笠会員、松井会員)
③司会(担当 加藤会員)の進行及び内容確認
④委員会タイム(担当 中ノ森会員、竹中会員、宇野会員)の内容確認
⑤講師先生のスケジュール確認(中ノ森会員)
⑥懇親会(担当 桑垣会員)の場所の確認

ビジネス交流委員会
平成10年10月7日(水) 於：米子食品会館 出席者/8名
内容/TSCビジネス情報誌(仮称)集約について
①各委員のデータ集約方法及び小冊子の内容討議。
予算・担当割・スケジュール等
・年内発行を目標とする
・10月例会で緊急募集する
・10月末日を締切とする
・11月編集

政治行政委員会
平成10年10月9日(金) 於：夢みなどタワー会議室 出席者/13名
内容/10月役員報告

視察報告書

政治行政委員会 浜 義徳

時 間：平成10年10月26日(月)
場 所：兵庫県多紀郡篠山町
篠山町・西紀町・丹南町・今田町合併協議会
講 師：同協議会 事務局次長 大西 稔氏
参加者：宮廻会長 堀田副会長 藤森監事 浜田県出向 浜委員長 平野副委員長 米子商工会議所青年部3名

今回、視察に伺った篠山町・西紀町・丹南町・今田町合併協議会(以下協議会に省略)は平成11年4月合併にむけて準備作業に多忙な最中で視察日には知事から合併承認書が交付されるという日にもかかわらず話をうかがった。

視察地多紀郡は三田市の北に位置し面積は378km²で大阪まで電車で70分の周りを山に囲まれた盆地である。歴史は丹波篠山六万石の城下町で篠山町の中心に城址がある。人口は4町合計で44,750人で市昇格の条件50,000人に若干不足するが大阪を通勤圏としたベッドタウン化で人口増加が見込まれ

・11月担当例会打合せ
地域ビジョン委員会
平成10年10月22日(木) 於：米子食品会館 出席者/9名
内容/1. 1月担当例会の打合せ
2. 講師 米子市観光協会 野島事務局長をお招きして、「観光への取り組み」と題し、観光コースの立案、他地域へのアプローチ、マスコミへの紹介など、現在取り組まれていることをお話いただいた。

げんこつ委員会
平成10年10月6日(火) 於：大連 出席者/10名
内容/現在ホテルサンルート米子で企業研修をされておられる県立米子南商業高等学校の小椋崇喜先生を講師にむかえ、学校現場の実状についてお話を伺った。
教師、生徒、保護者、行政、労組など、それぞれの立場から見た教育現場のとらえ方や、今まで知りえなかった内部事情などを聞くにつれ当委員会名物の「げんこつ」もしばしば登場。メンバーは自分たちの学生時代を思い出しながら今の教育現場のあり方についてそれぞれの思いを語り合った。

広報委員会
平成10年10月8日(木) 於：ホールサムイン皆生 出席者/11名
内容/役員報告
・第4回「ハンサム」編成会議
その後、場所をJOYに移し、金田和成会員の歓迎会を行った。

総務委員会
平成10年10月2日(金) 於：日本海情報ビジネス専門学校 出席者/12名
内容/委員会報告
・OB交流会打合せ
OB交流会は、細かいチェック、担当者の分担をはっきりさせ、当日何時に何をするか、など確認した。
わからないことがあるメンバーには、徹底して理解してもらえる様、質問をうけつけ、ディスカッションを行った。
OB交流会の成功をいのり、皆で決意を新たにした。
その後、夢路にて懇親会あり。

25周年特別委員会
平成10年10月7日(水) 於：米子食品会館 出席者/6名
平成10年10月22日(木) 於：翠明荘 出席者/6名
内容/1. 役員報告
1. 25周年記念事業の内容討議
1. 25周年特別企画案の確定(四役会提出)

るため市昇格は時間の問題とみられる。
多紀郡の合併で特筆すべき点は議員発議ということである。従来、多紀郡は藩政時代より一体感があり広域行政を行っていた。定期的に開催されていた郡議会議員研修会で合併が議論され、今日の合併に至った。しかしながら多紀郡においても過去5回の合併協議不成立という経験があり今回その経験から不退転の決意で議長、議員、町職員との合併研究会とプロジェクトチームを編成して事に当たった。それでもなお、反対派の工作により困難を極めた事例を聞くに及び合併問題の難しさを感じた。合併の必要性は下記に述べる事であった。

1. JR福知山線篠山駅周辺の整備事業
 2. 国立病院の廃止に対する存続の為の委譲問題
 3. 慢性的水不足により人口増加に対応する為の水資源対策
 4. ゴミ処理施設老朽化により人口増加、環境問題に対応する為の近代設備導入事業
 5. 多紀郡での建設場所問題がある広域市場の建設
- 合併のデメリットとしては以下が考えられる。
1. 公務員の余剰人員費
 2. 各地域選出議員間の軋轢
 3. 各地域公務員間の軋轢

